

八日堂 信濃国分寺
本尊秘仏 薬師如来

お かい ちょう
御開帳

十二年に一度の盛儀
4月29日～5月6日

信濃国分寺は聖武天皇の勅願によって創建されて以来、1280年にわたり国土安泰と万民和楽を祈願する一国一寺の道場として、また信濃の精神文化の象徴として、現在に至るまで法灯が伝承されています。

本年は十二年に一度の御開帳の年にあたります。4月29日から5月6日の日程で御開帳を開催いたしますので、お参りいただきますようご案内申し上げます(裏面参照)

やくしるりこうによらい
【本尊 薬師琉璃光如来】

信濃国分寺の薬師像は座高1,7mほどの大きな座像で左手に薬壺(やっこくすりつぼ)を持っており現世を護る仏と言われます。奈良時代の行基作とされますが、これは伝承でしょう。実際には現在の地に寺域が移り「八日堂」という市が発達し、それまでの官寺的性格から地域民衆の寺として親しまれるようになった室町中期以降の作と考えられます。

創建当初の国分寺は、釈迦三尊を金堂に安置するというのが国の構想でした。しかし平安期以降の薬師信仰の隆盛に影響され早い時期から薬師如来に替わったようです。現存の各地の国分寺の本尊も多くが薬師如来です。

十二年に一度というのは十二支や薬師如来が衆生を救うための十二大願によるのでしょう。

巳年開催は奈良時代に聖武天皇の国分寺建立の勅願が発せられた天平13年(741)が巳年にあたるのでそれに困んだと考えられますが、必ずしも巳年に行われてはいません。また実際に何時から始まったかも不明です。おそらく江戸時代になって、現本堂の前の本堂の頃から始まったのではないのでしょうか。



またお会いしましたね

お薬師さま